

## 平成19年度新規施策（ターゲットタンパク研究プログラム）について

### 1 施策名 ターゲットタンパク研究プログラム

### 2 開発・事業期間 平成19年度～平成23年度

### 3 施策概要

「タンパク3000プロジェクト」や「タンパク質解析基盤技術開発」から産み出されている成果及び整備された基盤を最大限に活用しつつ、現在の技術水準では解明が極めて困難であるものの、学術研究や産業振興に欠かせない重要なタンパク質をターゲットに選定し、タンパク質の生産・解析・制御等を一体としてそれらの構造・機能解析を目指す。このため、タンパク質の構造・機能解析のための技術・研究開発及び、基本的な生命の解明、医学・薬学等への貢献、食品・環境等の産業応用に向けてターゲットとなるタンパク質の機能解明を行う研究を進める。

### 4 総合科学技術会議における評価

総合科学技術会議の評価専門調査会が、国家的に重要な研究開発の評価を行った。その概要は次のとおり。

#### 1) 総合評価

本プログラムで目指しているタンパク質ネットワーク群の作用機序の解明は、医学・薬学をはじめ広い生物学分野の研究の基礎として重要であるのみならず、その成果は幅広い産業に応用されることが期待されるものであり、本プログラムの生物学上の意義及び社会・経済上の意義は高い。

また、競争的資金制度を用いて全国から創造的なアイデアを集めることとした方針は、難解析性のタンパク質の構造・機能解析を進展させていくための飛躍的な技術開発を目指す方策として適切である。

以上のことから、概算要求段階での研究開発のコンセプトとしては、本プログラムを実施することが適切と判断するが、本プログラムが着実に成果を上げ、その成果を国民に還元していくために、公募が行なわれる前の、具体的な研究開発計画等の検討過程において、以下の指摘事項に適切に対応し、具体的な研究開発計画、公募要領等を策定することを求めるものである。

#### 2) 指摘事項

- ① ターゲットとするタンパク質ネットワーク群の適切な選定について
- ② 挑戦的な目標の設定について
- ③ 効果的・効率的な研究開発実施体制及び弾力的な資源配分について
- ④ 柔軟で実効性のあるマネジメントの実施について
- ⑤ その他

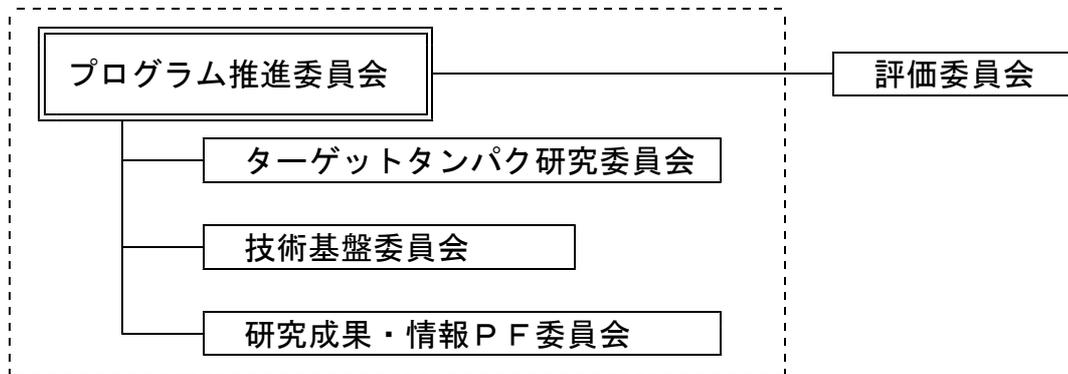
**5 平成19年度予算案**

5, 527百万円（間接経費30%を含む）

**6 事業の実施形態**

国と機関（大学等）との委託契約による実施  
競争的資金制度（キーテクノロジーの研究開発の推進）

**7 施策の実施体制（案）**



**8 今後の主な予定**

平成19年2月	課題選考委員会（公募要領等の検討）
2～3月	公募
4～6月	審査・採択
6～7月	事業開始

**9 参考**

- 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価「ターゲットタンパク研究プログラム」について（平成18年11月21日 総合科学技術会議）
- 「タンパク質解析基盤技術開発」は平成18年度で終了する。